

（※予防接種の重要な情報です。裏面にも注意事項がありますので必ずお読みください。）

この予防接種は、小学6年生から高校1年生相当の年齢で受けることになっています。いったん接種を開始した後に、定められた接種時期や接種間隔を守れなかった場合、予防接種法に基づかない接種（任意接種）として取り扱われ、予防接種にかかる費用は、全額個人負担となります。また、その接種で健康被害が生じた場合は、法に基づく救済を受けることができません。

接種勧奨の差控えにより接種機会を逃してしまった平成9年4月2日から平成18年4月1日に生まれた方は、令和4年4月1日～令和7年3月末までの間、救済措置として上記の方と同様に定期接種（キャッチアップ接種）が可能です。※接種機会の確保の観点から、キャッチアップ接種の期間中に定期接種の対象から新たに外れる世代（平成18年4月2日から平成19年4月1日までに生まれた女性及び平成19年4月2日から平成20年4月1日までの間に生まれた女性）についても、順次キャッチアップの対象となります。

○保護者の方へ：必ずお読みください。

予防接種を受けるに当たり本説明書及び予診票をお読みいただき、必要事項を記入した上で予防接種を受けてください。

【予防接種の対象となっている小学校6年生～高校1年生に相当する年齢のお子様（満16歳以上の者を除く）をお持ちの保護者の方へ】

これまで、お子様の予防接種に当たっては、保護者の同伴が必要でしたが、13歳以上16歳未満の方へのヒトパピローマウイルス感染症の予防接種については、保護者がこの予診票の記載事項の説明及び注意事項を読み、理解し、納得してお子様に予防接種を受けさせることを希望する場合に、この予診票に保護者が自ら署名することで、保護者が同伴しなくても、お子様が予防接種を受けることができます。13歳未満の方が接種を受けるときは、保護者の同伴がないと接種できません。

（接種当日はこの用紙にあらかじめ必要事項を記入のうえ、必ず持参してください。）

保護者の方が同伴されない場合、保護者自署欄（3ページ及び4ページ）に署名がないと、予防接種を受けることができませんのでご注意ください。疑問等があれば、あらかじめ、かかりつけ医やお住まいの区の保健センターまたは広島市健康福祉局健康推進課に相談するなど、十分納得したうえで接種しましょう。

当日医療機関に持っていくもの

- ① 年齢・住所を確認できるもの
- ② 母子健康手帳又は予防接種済証（2回目、3回目の接種時には、前回接種したワクチンを証明するものが必要です。）

1 ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症の症状について

ヒトパピローマウイルスは皮膚や粘膜に感染するウイルスで、100以上の種類に分類されています。これらのうち主に粘膜に感染する種類は、性行為を介して生じる表皮の微小なキズから、生殖器粘膜に侵入して感染するウイルスであり、海外においては性活動を行う女性の50%以上が、生涯で一度は感染すると推定されています。

粘膜に感染するHPVのうち少なくとも15種類は子宮頸がんから検出され、「高リスク型HPV」と呼ばれています。高リスク型HPVの中でも16型、18型とよばれる2種類は特に頻度が高く、海外の子宮頸がん発生の約70%に関わっていると推定されています。また、子宮頸がん以外にも、海外において少なくとも90%の肛門がん、40%の膣がん・外陰部がん・陰茎がんに関わっていると推定されています。また、その他、高リスク型に属さない種類のものは、生殖器にできる良性のイボ（尖圭コンジローマ）の原因となることが分かっています。

2 予防接種の効果と副反応について

(1) 予防接種の効果について

ワクチンの中には、2種類（または4種類）のヒトパピローマウイルス（HPV）のウイルス成分が含まれており、予防接種を受けた方は、これらに対する免疫を獲得することができます。体内に免疫ができると、HPVにかかることを防ぐことができます。ワクチンの接種で、子宮頸がんの原因の最も多くを占めるHPV 16型とHPV 18型の感染を防ぐことができますが、ワクチンに含まれない発がん性HPVに感染して、がんを発症することもあります。また、すでにHPV16型・18型に感染している場合や、すでに発症している前がん病変に対する効果はありません。予防ワクチン接種後も、20歳以降は、定期的子宮頸がん検診を受けるようにしましょう。

(2) 子宮頸がん予防ワクチンの主な副反応

予防接種により軽い副反応がおこることがあり、極めて稀ですが、重い副反応がおこることがあります。

主な副反応は、発熱や、局所反応（疼痛、発赤、腫脹）です。また、ワクチン接種後に注射による痛みや心因性の反応等による失神があらわれることがあります。失神による転倒を避けるため、接種後30分程度は体重を預けることのできる背もたれのあるソファに座るなどして様子を見るようにしてください。

稀に報告される重い副反応としては、アナフィラキシー様症状（ショック症状、じんましん、呼吸困難など）、ギラン・バレー症候群、血小板減少性紫斑病（紫斑、鼻出血、口腔粘膜の出血等）、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）等が報告されています。

3 子宮頸がん予防ワクチンについて

子宮頸がん予防ワクチンは、現在、次の2種類があり、**最初に使用したワクチンを最後まで接種します。**

- 「サーバリックス」（2価ワクチン）製造販売元／グラクソ・スミスクライン株式会社
- 「ガーダシル」（4価ワクチン）製造販売元／MSD株式会社

どちらのワクチンも子宮頸がんの予防効果があります。医療機関で相談し、どちらを接種するか決めてください。

「サーバリックス」と「ガーダシル」は、接種の間隔が異なります。

裏面もご覧ください

令和4年4月改